

私立大学研究ブランディング事業  
「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」  
平成 30 年度研究中間報告

**課題 2 バイオスティミュラントの利用による土壌作りと水質浄化**

担当者：谷坂 隆俊・桧原 健一郎・許 冲

**■平成 30 年度の達成目標**

研究担当者が開発したアミノ酸、ビタミン、糖、有機酸から成るバイオスティミュラントの土壌散布（処理）が野菜の生長に及ぼす効果を確認する。具体的には、カブ、コマツナおよびサトイモなどの生長および収穫量に及ぼすバイオスティミュラントの処理回数（回数）の効果を検証する。水質改善に関しては、所有者の許可を得て溜池の水質を調査し、汚れていればバイオスティミュラントを投入することにする。

**■平成 30 年度の進捗状況（9 月末時点）**

カブ、コマツナ、およびサトイモをガラス室内で栽培した。栄養価の低い真砂土に堆肥を投入し、土壌有機物が十分に存在する培土を作った。この培土にバイオスティミュラントを 1 週間おきに投入する区と 1 か月おきに投入する区、さらに、加えない区を設けた。現在、実験は継続中であり、最終結果は得られていないが、これまで、カブ、コマツナで 1 週間おきにバイオスティミュラント処理した区で明らかな成長促進が観察されている。サトイモについては、ガラス室内でポット栽培を行っているが、夏場の高温により、地上部植物体の損傷が激しく、地下部（イモ）にもその影響が生じているのではないかと危惧している。水質改善に関しては、所有者の許可を得て調査した溜池の水質がそれほど悪くなく、改めて、汚れた池を探索することにした。